

平成26年9月30日

第126号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



ふくしま森林再生事業 小川山国有林（福島県いわき市）
放射性物質の流出を防止するための丸太筋工
（撮影者：磐城森林管理署 業務グループ）

公益的機能維持増進協定の締結及び森林共同施業団地の推進

（その2）

計画課・技術普及課...

私と国有林

「遊々の森（さえずりの森）森作り委員会」

委員長 岡部喜一郎

「公益的機能維持増進協定の締結及び

森林共同施業団地の推進」(その2)

計画 課・技術普及課

国有林では、地域の施業集約化を支援するため、民有林と連携することで事業の効率化や低コスト化等を図ることのできる地域において、森林整備を推進するための協定を結び、この中で具体的な「森林共同施業団地」を設定し、民有林と国有林を連結した路網の整備や間伐等の推進、民有林材と国有林材の協調出荷等に取り組んでいます。

関東森林管理局管内では、平成24年度末時点で「森林共同施業団地」を9箇所設定しましたが、平成25年度に新たに2箇所を新規に設定しましたのでご紹介します。

【中越森林管理署 湯沢町森林整備推進協定の概要】

平成26年3月3日、新潟県中越流域の最上流部である湯沢町で県・町と森林整備推進協定を締結し、県行造林・町有林・国有林からなる森林共同施業団地における路網整備、効率の森林施業を連携して取り組むことにより、中越流域の森林・林業の再生と活性化に貢献しようとするものです。



協定調印式 (湯沢町)

今回の取組の特徴的なこととしては、湯沢町全域を森林整備の推進エリアとして協定が結ばれたことです。このうち町内の水無地区において、国有林約87ha、民有林約16ha(県行造林13・5ha、町有林2・4ha)の合計約103haの水無地区森林共同施業団地が設定されました。

本協定では、路網整備として林業専用道500m、森林作業道1100m、木材の生産は3934立方メートルなど、林業専用道や森林作業道の作

設や間伐計画を共同で作成し、作業の効率化を図ることとしました。

なお、新潟県内では2件目、中越流域では初めての協定締結となり、今後はさらに隣接する個人所有林で提案型集約化施業を行うことで、林業事業体と連携して地区住民への呼びかけを行い、将来は、県・町・個人・国が協力し、まさに地域が一体となった森林共同施業団地設定へ発展させるため取り組む予定です。

【吾妻森林管理署 四万駒岩地区森林整備推進協定の概要】

平成26年3月26日、群馬県中之条町四万駒岩地区の森林整備推進協定が締結されました。当地区では、平成24年度から現地調査を始めとする各種の検討が進められ、平成26年1月には、中之条町・群馬県吾妻環境森林事務所・吾妻森林組合と連携し、民有林の森林所有者(個人所有者)を対象に森林整備の必要性や森林整備の作業システム、補助金制度、森林共同施業団地等について地元説明会を開催しました。

対象地は小面積の森林所有者が約80名と多いことや、搬出した材の集積場所の用地確保、生活道路を使用している運材等、森林所有者の合意形成をいかに順調に進めるかが鍵となっていました。関係機関が結束して対応した結果、国有林137haと民有林73haの合計約210haの区域に

ついて、大変スムーズな民有林の集約化と森林共同施業団地を設定することが出来ました。

今回、路網整備として森林作業道15400m、木材生産は9700立法haなどを内容とする、民・国連携した森林施業の計画を作成し今後4年間で実施していくこととしています。

特に今回の取り組みにおいては、民有林の集約化を進めるための地元説明会に国有林職員も参加し、民有林所有者とも今後の森林づくりなどについて直接意見交換をすることができたことで、このような国有林の新たな取組に対する理解も深めることが出来たものと思います。



協定調印式 (中之条町)

夏休み 治山教室の開催について

大井川治山センター

大井川治山センターと榛原川地区治山協議会では、8月8日(金)に小学生を対象とした恒例の治山教室を川根本町の榛原川地区で開催しました。

台風の接近が予想されましたが、子供達の願いが通じたのか何とか台風も足踏みをしてくれたようです。バスの車内で自己紹介の後、森林の働きや治山事業について説明をしながら現地へと向かいました。

開会式の後、最初はゴボウ薙治山工事箇所の見学です。着事前の写真と復旧途上の現況及び完成予想図の説明を受けたり、ケーブルクレーンでの資材運搬など興味深そうに見学していました。(写真①)



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

昼食後は樹高の目測クイズを実施しました。「これも賞品があるよね」と念押ししつつ子供たちは真剣な表情で樹高を測定していました。

休憩を挟んで次は立木調査体験です。輪尺、測桿、バーテックス等の使い方を教えてもらい、胸高直径や樹高の測定を体験しました。日頃なかなか目にする事の無いブナやヒメシヤラの大木に興味深そうに触れていました。(写真③)

昼食休憩の前には特別にチェンソーアートのパフォーマンスを見学しました。さてさて何が出来たかは後のお楽しみです。

閉会式ではクイズの成績優秀者を表彰し、参加者全員にカブトムシやクワガタなどのお土産があり、子供たちの目が輝きました。ちなみにチェンソーアートで出来たのもクワガタのミニチュメントでした。

帰りのバスの中では、疲れたのかだいぶ口数が少なくなりましたが、時折、森林や治山事業についての難しい質問も飛び出し、子供たちが想像以上に興味を持って、主催者としても有意義な一日となりました。

引き続き、榛原川地区最大の崩壊地であるホーキ薙治山工事箇所に向かいました。日頃は霧でなかなか視界が悪いのですが今日は景色が良く見えて迫力ある工事施工地に感嘆の声があがりました。

情で樹高を測定していました。(写真④)

そしていよいよ子供たちが楽しみにしていた重機の搭乗体験です。大小3台のパワーシャベルの操縦席に3班に分かれた子供たちがかけあがり、予定した時間は瞬く間に終了し、閉会式へと進めました。(写真⑤)

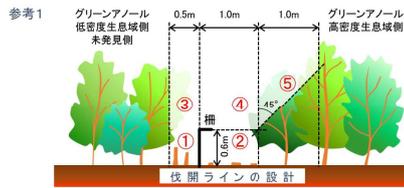
国有財産台帳価格の改定

保全課

国有財産の台帳価格は「毎会計年度、当該年度末の現況において、財務大臣の定めるところにより評価し、その評価額により国有財産の台帳価格を改定しなくてはならない。」と国有財産法施行令第23条に定められておりますが、国有林野事業特別会計に属する国有財産においては、「固定資産の価格が著しく不適當となったときは、その価格を改定できる」と例外を認められておりました。

平成25年度の一一般会計移行により、平成26年3月31日付けで国有財産台帳価格が改定されました。昭和51年4月1日に価格改定されて以来、37年ぶりの改定でしたが、6月に無事作業が終了しました。

グリーンアノール対策の取り組み(林野庁)



オガサワラボチヨウジ等希少種は枝の張り出しをロープで抑え、可能な限り剪定を回避した。



伐採木、および剪定枝の切り口には保護剤を塗布した。



多くの樹種で後生枝の伸長が見られる。写真はムニンシヤンパン。伐採後115日目

「兄島」におけるグリーンアノール対策…その後の状況

小笠原諸島森林生態系保全センター

小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール対策については、平成25年6月号の本誌上で取組直後の状況をお知らせしたところです。その後、現地での熱い議論を経て、

関係機関によりそれぞれ具体的な対策を講じてから1年が経過しました。当センターとしての状況について報告します。

1 グリーンアノール対策に係る保全センターの関わり

グリーンアノール対策としては、①探索(分布域を把握する)②捕獲(トラップ等で捕まえる)③遮断(柵を設置して移動を防止する)④再侵入防止(侵入経路を検証し、再侵入を防止する)について関係機関それぞれ具体的に対策を進めてきたところです。

このうち、当センターにおいては、①、②について、環境省の事業がスタートするまでの間は、関係機関として協力すべく参加していましたが、現在、当センターでは、③の遮断について、「現在の技術においては、限られたグリーンアノール



世界自然遺産の価値保全、生物多様性等の観点から断腸の思いで対応しているところです。

2 柵設置への取組

伐開にあたっては、兄島の貴重な樹林帯を対象とすることとなるため、小笠原諸島の森林生態系保護地域保全管理委員会委員、世界自然遺産地域科学委員会委員の助言も受けつつ慎重に取り組みました。

伐開ラインの設計(参考1参照)を基本に、固有生態系修復事業の受託者と連携を密に図りながら柵ライン伐開の流れ(参考2参照)のとおり丁寧に進めています。

特に配慮したことは、
○柵周辺の植生調査を綿密に行い、事前・事後のモニタリングを実施
○やむなく伐採する時も柵に影響のない範囲で、地際でなく高い位置で伐採、枝払いを行い後生枝の伸長を促進

○剪定木の切り口には保護材を塗布
○剪定が必要な希少種については、枝の張り出しをロープで押さえるなど極力剪定を回避

3 今後の課題

現在の柵仕様では貴重な樹林帯を伐開せざるを得ないことから、柵の設置を伴わないグリーンアノールの防除技術の早期確立が必要です。また、伐開による風道化、乾燥化、外来種の侵入などに対応するためには細かいモニタリングが必要であり、柵の効果を持続するためにメンテナンスも適時・適切に行う必要があります。

するなど、丁寧な作業により、その後多くの樹種で後生枝の旺盛な伸長が見られます。

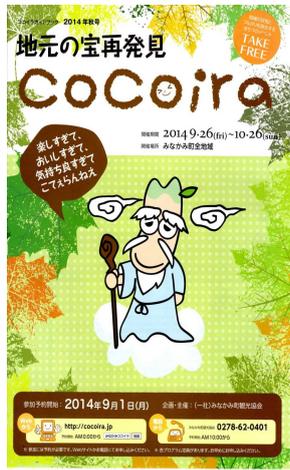


柵とトラップ

地域と繋がる赤谷プロジェクト

みなかみcocoira(ココイラ)

赤谷森林ふれあい推進センター(以下、赤谷センター)が推進する「赤谷プロジェクト」では「持続的な地域づくり」を目標の一つに掲げています。年間を通して、プロジェクトでわかったことなどを地域の皆さんに「地元の魅力」として知っていただく機会として、活動報告会・AKAYAカフェ等様々なイベントを行っています。今回は、昨年度から自然体験プログラムを提供するなごPARTナーとして参画している「みなかみココイラ」(以下、ココイラ)での取組を紹介します。



ココイラとは、

地元の人が地元を案内して、みんながこの町を大好きになるための小さなプログラムの集まりで、温泉地として地域の活気とつながりを再生するまちづくりイベントです。

※ココイラの名称の由来は、群馬弁の「ここいらで(そろそろ)、ここいら(この辺り)、ここにいらいっやい」をヒントに、地元の皆さんには馴染みが深く、そうでない人には新しい言葉の響きとして覚えていただくためにつけた名称だそうです。

ココイラハPARTナーとして参画

きっかけは、日々の活動でつながりを深めてきた、赤谷プロジェクト地域協議会とみなかみ町観光協会からの熱心なオファーでした。赤谷センターとしても地域との繋がりを深めたいと考えていた時期と重なり、積極的に参画することにしました。

また、ココイラは、小さなプログラム(10人程度)の集まりであることから、スケジュールの隙間を利用して事前準備等の負担を最小限で実施できることも魅力の一つでした。

昨年初参加!

初参加の昨年は全てが試行錯誤でしたが、今年度は、昨年以上に、キャッチ・コピーにも知恵を絞り、より小回りの利く、地域に限定した少人数でアットホームな体験プログラムを用意しました。その甲斐もあり、ココイラ事務局が主催する記者発表プログラムの一つとして「マツのコーデラックス豪華版!」が選ばれました。

平成26年度赤谷センターの提供するプログラム! 自然や森とふれあう、知る!

5 ○センカメ仙人と行く赤谷の森10・旧三国街道の巨木に会おう!



○ネイチャークラフト教室10・15 マツのコーデラックス豪華版!



最後に!

詳細は、ココイラホームページを 検索

http://cocoira.jp/

みなかみにお越しになった皆さんと地域を大好きになってほしいという思いをもった地元の方々が一緒になって「みなかみの魅力」を体験するココイラ!、感動をお土産にお持ち帰りください!

今月の表紙 「ふくしま森林再生事業」

写真は、福島県いわき市小川町の小川山国有林で、放射性物質の流出を防止するため森林作業路、急傾斜地に丸太筋工を平成25年度に実施した箇所です。

この「ふくしま森林再生事業」における国有林野事業の名称は「国有林野事業における放射性物質対処型森林・林業復興対策実証事業」というものです。

今年度も、保育間伐活用型事業との同時発注で丸太筋工による放射性物質の流出防止事業を実施する予定です。



私と国有林

遊々の森(さえずりの森) 森作り委員会

委員長 岡部喜一郎

当委員会は、棚倉森林管理署管内、福島県鮫川村にある大犬平薪炭共用林組合26名が昔から長く活用させていただいた薪炭林が、時代の変化、社会の変化に伴い、木炭も薪も必要とされなくなってしまうことから、

この森林を守るため、別な形での保全管理に努めようと22名で立ち上げたものです。

大犬平地内には青生野小学校があり、四季を通して体験活動が出来る最高の場所です。

春5月には落葉樹の芽吹きが素晴らしいです。森の中には下

草の群生地(ニリンソウ、ヤブレガサ)など植物にも生きる知恵があるようで高木の葉が出ないうちに下草の花がいつせいに咲き揃います。そしてまさに「さえずりの森」のごとく沢山の野鳥がやってきます。

留鳥もかなりいますが、5月に入ると渡り鳥のカッコウやホトトギスが来て大変賑やかになります。

なります。どんぐり一つとっても、クヌギのどんぐり、ミズナラのどんぐり、コナラのどんぐりなどその場で比較することができ勉強になります。

冬には学校の校庭や教室での巣箱づくり体験やキノコ栽培の植菌体験などに子どもたちは喜んで取り組んでいるようです。これからも自然を大切にして森林のありがたさを学んでほしいと思います。



樹木観察で熱心に指導する筆者の岡部さん



さえずりの森での体験学習



キノコ栽培の植菌作業



さえずりの森に咲くオタカラコウ

森づくりの最前線

上越森林管理署 高田森林事務所 首席森林官 吉川 徹



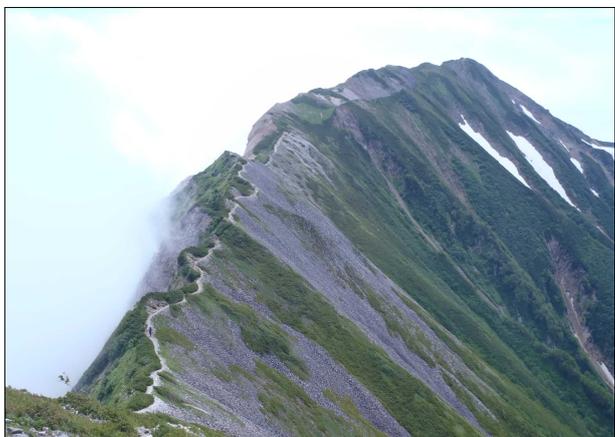
頸城平野からの米山

私が勤務する高田森林事務所は、新潟県最西部の上越市に位置し、上越市、妙高市及び糸魚川市を管轄しています。

国有林については、長野県及び富山県に隣接した約240000畝を管理しており、その多くは、標高800畝以上の地域に位置し、ほとんどが自然公園に指定されています。

また、林況は、大半が天然林となっており、人工林はわずか5畝程度となっています。

管内は、北は古くから海上交通の目印とされた米山(よねやま)(標高993畝)から、東頸城丘陵(ひがしくびききゅうりょう)(関田山塊)を経て、南は富山・



船越の頭から小蓮華山を望む

長野県境に隣接する三国境に隣接する小蓮華山(これんげさん)(標高2766畝)までと区域も広く、また、県内でも有数の豪雪地帯であり、平野部の積雪は1畝程度ですが、山間部では2畝を越え、県境の奥山山岳地帯は5畝以上に達します。

天然林では、雪害の試練を耐え抜いたブナ林が特長的で、特に日本海側のブナは樹肌が美しく、すらつと直立して成長し、見られるようなブナ林が標高800畝から1000畝に掛けて群生しています。

このブナ林及び天然林を生かし、かつては信濃と越後を結ぶ交通の要所として使われた国有



信越トレイル

林内の古道を平成16年に長野県のNPOと長野県が協定を結び関田山脈の稜線上を全長約80kmに及ぶロングトレイル「信越トレイル」として開設され、自然豊かな里山トレッキングとして



ブナ林



雷鳥坂周辺のライチョウ

日々利用されています。

また、管内には、深田久弥の記した「日本百名山」に含まれる火打山、妙高山、雨飾山、そして、北アルプス、後立山連峰の山稜に沿って、小蓮華山(新潟県・最高峰)を有しておりシーズンには多くの登山者に利用されています。

現在、業務を通じて様々な「森林・国有林への意見・要望」を聞く機会がありますが、国有林隣接地域及び都市部での森林への関心、期待がそれぞれ違うことが感じられます。

このことから、その地域・環境に合った森林管理・施業を取り入れ、国有林に求められるニーズに対応した森づくりを目指して行きたいと思えます。

管内のいちおしスポット



かろうさん 鹿狼山

■ 磐城森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/iwaki/index.html>
〒979-0201 福島県いわき市四倉町字東2-170-1
TEL:0246(66)1234(代表) FAX:0246(66)1255

鹿狼山は、福島県浜通り地方最北の新地町と、宮城県丸森町にまたがる標高430㍎の山で、日本最古の山脈と言われている阿武隈山地の北端に位置しています。その昔、鹿と狼を連れた「手長明神」という、とても手の長い神様がこの山に住み、太平洋まで手を伸ばして貝を取って食べた山として伝えられ、山頂からは手が届きそうなくらい間近に太平洋の大海原が迫って見えます。



鹿狼山:特徴ある姿は航海の目印に

福島県側からは、手入れと心配りの行き届いた5つのハイキングコースがあり、どのコースからも40分から1時間程度で山頂にたどりつくことができます。

山頂からの眺望はとても素晴らしく、太平洋の大海原が一望でき、振り返ると、蔵王連峰や吾妻・安達太良連峰をはじめ、幾重にも山並みが連なって雄大な景観となっています。



鹿狼山の頂上から望む初日の出(新地町提供)



クヌギの大木もある「原生林」

新地町では、平成23年3月11日に発生した大津波によって、町の5分の1の面積に当たる904㍎もの土地が浸水し、大きな被害をもたらしました。頂上から眺めると、松川浦(相馬市大洲国有林)をはじめ、海岸線に沿って被災した堤防の復旧工事や海岸保安林、防災緑地の造成に大型の重機が何百台も動いている姿が見え、足下では、今年度の開通を目指す常磐自動車道の新設工事が急ピッチで進められており、復旧・復興の槌音があちこちから聞こえてきて感動を覚えます。なお、鹿狼山の山麓には新地インターチェンジができる計画です。

鹿狼山には、「ふくしま緑の百景」の指定を受けた「鹿狼山の原生林」があり、ハイキングコース(特に樹海コース)からは、コナラやクリのほか、クヌギの大木を見ることができ、今年度の開通を目指す常磐自動車道の新設工事が急ピッチで進められており、復旧・復興の槌音があちこちから聞こえてきて感動を覚えます。なお、鹿狼山の山麓には新地インターチェンジができる計画です。

鹿狼山には、「ふくしま緑の百景」の指定を受けた「鹿狼山の原生林」があり、ハイキングコース(特に樹海コース)からは、コナラやクリのほか、クヌギの大木を見ることができ、今年度の開通を目指す常磐自動車道の新設工事が急ピッチで進められており、復旧・復興の槌音があちこちから聞こえてきて感動を覚えます。なお、鹿狼山の山麓には新地インターチェンジができる計画です。

きます。これだけ大きなコナラやクヌギが林立する林を見たのは初めてであり、まさに自信をもって紹介する「いちおしスポット」です。

毎年、元日には「初日の出登山」が行われ、朝6時の花火の合図で山頂を目指し、大海原から昇る初日の出を拝み、山頂に祭られた「鹿狼神社」に初詣する人気のイベントです。これから、秋の紅葉、初冬の低山歩きと、楽しみいっぱいの鹿狼山に足を伸ばしてみませんか。(磐城森林管理署広報広聴連絡官)

編集発行所
F A X (027) 230-1393
TEL (027) 210-1158
総務課
関東森林管理局



鹿狼山ハイキングマップ(新地町提供)